

『Mind Charging』

第 202 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 2 月 1 日

高須克弥(高須クリニック)の名言



どんなことでも、自分と自分の家族に できないことを人にやるもんじゃない。

この言葉を読んだ時に、私が幼い頃に流れていたテレビ CM を思い出しました。信号待ちの車の窓が開き、車用の灰皿に溜まった煙草の吸殻やジュースの空き缶を道路にポイ捨てするシーンが流れ、『自分の家の前でも同じことをするのか？』という音声が流れるものです。幼心に『うちの両親はそんなことはしてほしくないな・・・』と思ったことを覚えています。“自分と自分の家族にできないこと”とは、“自分と自分の家族にはしてほしくないこと”ということであり、それをしてしまった場合、自分と自分の家族がネガティブな感情に襲われるということになります。

自分のことは大切です。自分の家族も大切です。そして、普段は家族以上に同じ時間を過ごしているであろうクラスメイトや部活のメンバーなどの存在も同じくらい大切だと思います。高須委員長は『自分や自分の家族に対する愛情と同じくらいの思いやりを持って人と接していこう！』というメッセージとしてこの言葉を発したのではないのでしょうか。

人は人によって育てられる部分が非常に大きいと思います。それは、学校のように知識や教養などを“教わる”ことによって育つということもありますが、学校も含めた社会の中で自分以外の人の立ち振る舞いや言動などから“気づき”によって育つということもあります。ネット上にある情報も人が載せたものです。様々な形で人から発信された情報から自分の思想が形作られていき、新たに発信される情報によってアップデートされていくのです。

今後も、様々な選択を迫られることがあります。その時に、みなさんの選択基準に今回の言葉があってほしいと願っています。生活の中の様々なところから得た情報と自分の感覚の答え合わせしながら『あるべき姿』を模索し、『自分の欲求<他者への思いやり』という考え方ができる人になっていきましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

高須 克弥(たかす かつや、1945 年<昭和 20 年>1 月 22 日 -)は、日本の医師(美容外科・整形外科・形成外科)。医学博士、昭和大学医学部客員教授、医療法人社団福祉会理事長、高須クリニック院長、浄土真宗(真宗大谷派)僧侶。ホロコースト否認論者。タレントとしてはオールアウトに所属。芸能人を中心とした有名人の手術を数多く手がけた。また、格闘技 K-1 のリングドクターとしても活動した。国際美容外科学会会長および日本美容外科学会会長も歴任した。(Wikipedia 参照)